

## 台風シンポジウム公開講演会

畠・山久尙

1954年11月9日から12日まで東京品川のプリンスホテル別館でユネスコ台風シンポジウムが開かれた機会をとらえて、公開講演会、座談会、研究会のようなものがいくつか催された。日本気象学会は毎日新聞社と共同主催で、11月10日午後6時半から毎日新聞社5階大会議室で公開講演会を開いた。講演会の次第は次のようであった。

挨拶 台風シンポジウム組織委員長 和達 清夫  
講演者の紹介 日本気象学会理事長 畠山 久尙  
台風と人間の戦い アメリカ R.H. シンプソン  
完全なハリケン アメリカ

レオン・シャーマン

台風のよりよき理解のための上層気流の研究の重要性 インド K.R. ラマナサン  
シンプソン氏はハリケン及び台風に関する彼自身の体験について語り、この10月に合衆国を襲ったハリケン・ヘーズルの眼の中で撮って来た美しいカラー・スライドを沢山見せて、ハリケンの構造についての最新の模型を示した。シャーマン博士は虎の顔や虎の全身の絵のスライドを示して、ユーモアたっぷりに、ハリケンを論ずる時には眼や単純な渦巻だけに注目してはいけなと主張した。ラマナサン博士は老大家の風格を示して、虎が牛に化ける話をし、現在世界各国が共同で計画している1957~1958年の地球観測年に台風の研究をも期待していることを述べた。3氏の講演の通訳には日本学術会議調査課長の吉田正男氏が当られた。

いずれも会場を満した約200名の聴衆に強い感銘を与え、午後9時近くを閉じた。次に3つの講演の要旨を記すが、その前に3人の講演者の略歴を、講演者自身に書いてもらったメモに従って記録しておこう。

R.H. Simpson 1912年11月19日にテ

1955年1月

キサス州のコーパス・クリスチに生れた。ジョージア州アトランタのエモリー大学を卒業してマスター・オブ・サイエンスの学位を得、シカゴ大学で気象学のポスト・グラジュエートのコースを終った。1940年以来合衆国気象局に勤務している。その中3年間はフロリダ州マイアミでハリケン予報官をやり、4年間はハワイ・ホノルルの気象台において太平洋の気象の研究プロジェクトの主任となっていた。1952年よりはワシントンの気象局で研究官の仕事をしている。

Leon Sherman 1918年12月1日に生れた。1941年ロサンゼルスのカリフォルニア大学で数学のM.A.の学位を得、さらに1950年同大学で気象学でPh.D.の学位を得た。現在はフロリダ州立大学の気象学の助教授である。米、英、スウェーデン等の専門の雑誌に約15篇の論文を発表している。その中に特にハリケンの進行、構造、飛行機観測に関する4篇の論文がある。

K.R. Ramanathan 1893年2月に生れた。1922年から25年までランゲン大学で物理学の講師をしており、この間に有名なラマン教授とともに気体及び液体の中での光の散乱の研究をした。1925年以後インド気象局に入り、高層気象観測所で高層の温度、湿度、山岳地帯の大気大循環、モンスーンの構造、インド洋の低気圧、大気の輻射、大気中のオゾン等に関する研究をした。インド気象局を退いてからはアーメダバッドの物理研究所長に変わった。現在最も関心のある分野は大気オゾン、電離層の風を含む電離層の問題である。IUGGの1954年のローマ総会では気象分科会のプレジデントであったが、次期の1957年のブエノサイレス総会では全体のプレジデントに指名されている。

(気象研究所)